

加盟店向け「在庫情報共有サービス」独自開発 メディシス、地域単位で医薬品を安定確保「地域Fへの発展も」

2023/9/8 04:50

メディカルシステムネットワークは、同社の医薬品ネットワーク加盟店向けに、医療用医薬品の在庫情報を共有し融通し合うことを目的としたシステムを独自開発した。今月11日から運用を開始する。必要な医薬品を検索すると、仕入れ実績がある半径30キロメートル内の同社直営店と加盟店が、最終仕入れ日などの情報とともに一覧表と地図上へ表示される。同社は、システムの活用を通じて医薬品の地域単位での安定確保とともに、地域で取扱品目に関する情報が共有されることによる地域フォーミュラリへの発展にも期待を寄せている。



在庫情報共有サービスの画面を前に清水氏（左）と勝木氏

同システム（在庫情報共有サービス）は、医薬品ネットワーク加盟8885件（8月31日時点）が無料で活用可能。必要な医薬品名を入力すると、同社直営435店舗（同）を含め仕入れ実績がある半径30キロメートル内の薬局が距離の近い順に表示される。薬局名や住所、電話番号、距離、最終仕入れ日などを一覧表で示すとともに、地図上に位置を表示。一覧表から薬局を選択すると、地図上に経路も表示する。

各加盟店が在庫状況を入力するのではなく、メディカルシステムネットワークが医薬品卸から毎日受け取っている加盟店の納品データを基に、1日3回程度最終仕入れ日を更新する仕組みのため、加盟店は負担なくリアルタイムに近い情報の共有が可能。在庫を

融通し合う際の価格などについては、それぞれの薬局同士で地域特性を踏まえながら取り決める。

●供給不安定踏まえ、加盟店の要望受け開発

システムは、後発医薬品を中心に不安定な供給が続いている状況を踏まえ、加盟店からの要望を受けて開発した。加盟店がEOS（電子発注システム）で医薬品を発注しても、医薬品卸で欠品しているとその発注がキャンセル扱いとなるため、加盟店では電話など別の方法で発注し直す必要が生じる。

SCM事業本部デジタル推進部長の熊谷恵信氏は、そうした理由から「全加盟店のEOS発注率が、90%台から80%台に下がっている」と説明。加盟店の発注業務の負担だけでなく、医薬品卸の受注コストの増加や急配などによる配送コストの増加にもつながっているという。地域の薬局間で在庫を融通し合うことで、こうした課題が解消し流通改善につながればとの考えを示した。

また、同事業本部長の清水健司氏は「直営店と加盟店、どちらも同じ価格で単品単価契約を行っている」と強調。そのことが、在庫を融通し合う際の地域特性を踏まえた価格の取り決めやすさにつながると指摘した。さらに、同システムの活用を通じて地域ごとに取り扱品目に関する情報が共有化されるとも説明。取り扱いが多い品目への集約化が進むことで、地域フォーミュラリにも発展すればとの期待感を示した。

同副本部長の勝木桂太氏は「地域の薬局が対人業務に専念できるサービスを提供することがわれわれの役割の一つ」との考えを示した。（藤田 昌吾）

PHARMACY NEWSBREAK 2023年9月8日掲載
[許諾番号20230911_01] 株式会社じほうが記事利用を許諾しています。